

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4247300247		
法人名	有限会社 カワトタイル		
事業所名	グループホーム よこせ	ユニット名	
所在地	〒851-3509 長崎県西海市西海町横瀬郷2762番地2		
自己評価作成日	平成29年11月17日	評価結果市町村受理日	平成29年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年11月28日	評価確定日	平成29年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この西海の地、自然あふれる海や山に恵まれた環境の中に『グループホーム よこせ』はあり、この横瀬地区の住民の方々には人情に厚く温かく見守っていただける雰囲気の中、利用者様と馴染みのあるスタッフと共に助け合い、自然と笑顔が出る環境づくりと基本理念に基づき、入居者様中心の家庭的で心あるケアを大切にさせていただいております。地域の方々との交流も地域行事やイベントにも積極的に参加させていただき、顔見知りの方との出会いがあり、生き生きとした生活の活力となるお手伝いのできる支援を行い、自立した生活が少しでも多くできる事を目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームよこせ”は開設から13年目を迎えている。地域に溶け込み、地域の一員となって、地域の方々との協力関係を築いてこられた。保育園児との交流も継続し、保育園で行われる「お店屋さんごっこ」に参加し、楽しいひと時を過ごされたり、ホームの畑の芋掘りをして下さる保育園児との交流も楽しんでいる。日々の食事も大切にされており、管理栄養士が作成した献立表を基に栄養バランスに配慮した美味しい食事が作られ、病院の医師や看護師等から、「よこせ」に行ったら、みんな良くなる「笑顔が良い」「顔色が良くなった」「お話ができるようになった」等のお褒めの言葉を頂く事も多く、職員は嬉しく思っている。職員のチームワークも更に良くなっており、今後も家族と地域の方々と共に助け合い 共に生きる」関係を深めていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様、地域、家族をつなぐため理念の中の『地域に開かれたホームを目指し』とあり、地域の行事の参加、交流を維持させて頂いており、地域の方々の協力も頂き感謝を忘れず、実践につなげています。	業務前に基本理念、職員の心得などを復唱している。「共に助け合い 共に生きる 出逢えた事の喜びとこれからの一生を大切に」と言う理念の実践に努めており、地域の一員としての活動も継続し、常に感謝の気持ちで過ごされている。	今後も「理念」「職員の心得」などを具体的に実践していくために、毎月の目標等を掲げると共に、職員個々に頑張られた事や反省点などを共有し、更なる取り組みに繋げていく予定である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事等、見学も含め多様な機会を通じてできる限り参加協力をさせて頂いています。また、ホーム内でも芋の苗植えや保育園児との芋掘りなどの交流を図っており、今後も継続していきたいと思えます。	年々地域の方との絆を強く感じられており、地域の総会や体育祭、薬師様奉納相撲、横瀬地区元旦マラソンの応援、横瀬地区敬老会等に参加したり、保育園児との交流も楽しいひと時になっている。“作り上がりの集い”で婦人部の調理担当として施設長が参加協力している。	今後も地域行事や保育園の行事等に積極的に参加していきたいと考えており、ホームと地域の行事等を盛り込んだ年間予定表を作成し、事前に参加者を募ったり、職員の勤務体制を調整していければと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が地域の総会等に出席し、グループホームの特性や地域の方々に気兼ねなく施設利用を呼び掛けています。以前は、介護疲れでご自分の思いや悩みを吐き出しに來られ、傾聴に徹したところ、スッキリされたように帰られ、いつでも来て頂けるようにお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者の方々の貴重な意見を大切にさせて頂き、地域の方が作ってくださったおやつ（おはぎなど）を頂きながら話し合いが出来ています。	ご利用者、家族、地域、医療、行政の方などと地域連携の在り方や苗の情報交換をしている。前回の外部評価以降、小学生との交流方法のアドバイスを頂き、29年12月に小学生と交流できるようになった。ホームの取り組みと役割を理解して頂き、課題も報告し、有意義な会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告文章に加え、申請書や更新手続きなどの報告と地域ケア会議の参加を行っています。	運営推進会議には市の課長が参加して下さり、ホームの取り組みを理解して頂き、地域交流の評価もして下さった。29年1月に防災無線の相談を行い、ホームに2台設置して頂いたり、29年度から地域ケア会議に積極的に参加し、市や地域の方、多職種との情報交換を続けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないと決めているため、外に出られる時は、必ず後方から見守りを行いご本人が納得されるまで歩いてもらいます。また、研修に参加しスタッフ会議等で報告、情報の共有に努め、見守り気づきの確認を行い合っています。	「身体拘束は絶対にしない」という方針であり、感情が不安定な時は原因解決に向けた取り組みを続けている。「いつでも帰宅できる」「いつでも外出できる」と言う安心感を持って頂き、職員と散歩ができる環境が作られ、近所の方の見守り支援も温かく、感謝の思いを伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する知識を深めると共にスタッフ自身もストレスを溜めないようにメンタルの面で職員間でお互いに話を聞き合ったり必要に応じて、適度に休息をとることを心掛けています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、スタッフ会議等で報告し制度についても勉強しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、丁寧に説明をさせて頂き、ご家族様、利用者様の思いを傾聴し、疑問点がないように務めさせて頂いております。また、契約後でもご質問があればご説明させて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等で意見を聞いたり、来所時に限らず電話でも情報交換を行い意見・要望を大切に反映できるように努めております。	面会時に家族との担当者会議が行われ、暮らしぶりの報告を行い、行事などの要望も伺っている。花見の時は家族が車を出して下さり、一緒に花見を楽しまれたり、敬老会や忘年会、新年会の時も家族同士の交流が行われている。入居時から「面会に来てくださいね」と伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等や引継ぎノート等を書いて意見を反映しています。	代表等も明るいお人柄で、職員が意見を伝えやすい環境が作られ、処遇改善加算の配布方法を報告し、全職員が了承の上で運営が行われている。会議の時に内部研修(身体拘束、消防、接遇、傾聴、病気等)を毎月行い、外部研修(口腔ケア等)への声かけも続けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が各スタッフと常に話し合い職場環境の整備に努めており、必ず休憩を取るなどストレスのない職場環境を目指しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が研修情報を他のスタッフに呼びかけ、正職員・パートを問わず参加を進めており、内部研修も積極的に行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括ケア会議に積極的に参加し、多職種との研修に参加したり、施設交流事業として西海市施設連絡協議会主催の交流会にも参加しました。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の利用者様は特に気を付けて不安のないように、会話(傾聴)をもとに利用者様が安心して暮らせるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とは、面会時に、こまめに情報を共有し、悩み等あれば、事務所等でゆっくりお話をお聞きしたりしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅支援事業所からの紹介で利用されている方には、事業所のケアマネとの生活状況を報告しあい、いつでも在宅生活へ移行できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒にを行う共同作業や一緒に食べる食事なので会話により暮らしを共にする関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設とご家族様で手を取り合いご利用者様の要望を大切な想いを支え合っていく事が重要なこととお話しさせていただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診や地域行事、買い物などの外出等で馴染みの方との出会いや、ドライブなどを行いながら過去の大切な物として、会話の中で出てくる人や場所を取り入れた会話をすることで幾度となく思いを巡らせてもらい生きる力として活用しています。	馴染みの関係を大切にしており、近所の方も来て下さっている。地域行事や馴染みの商店、大島の馴染みのスター、病院等に外出し、地域の方と会話をしたり、家族とお墓参りや外出(外食)に行かれる方もおられる。職員も一緒に自宅訪問し、思い出話を楽しまれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替え等し、利用者様同士がお互いに助け合い楽しく笑って過ごせる支援に努めております。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設等に面会やアルバムを作り持って行ったり、ご家族様より相談も受けております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望を傾聴し、スタッフ間で共有し、話し合いを行い実現に向けた支援に努めております。	29年1月から担当職員を中心に生活歴、ADL、IADL等の情報収集をしており、職員が地図を広げて、ご本人と自宅の確認をする姿も見られている。「散歩がしたい」「家に帰りたい」「自宅の仏壇に手を合わせたい」等の要望も聞かれ、家族と協力して叶えられるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センターケア方式に基づいて、担当職員を中心に情報を収集しています。今後充実した内容になるのではと考えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼夜の過ごし方の把握を経時的にとらえているところですが、今後は在宅での様子と比較できるように努めようと思います。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご意見、評価を本人、ご家族から随時間き取り反映させてもらっています。	ご本人と家族の要望を伺い、担当職員が「できる事」「できそうな事」等を記録している。計画作成担当者が介護計画を作成し、職員間で検討している。日々の役割(掃除、洗濯物たたみ等)と共に、「少しでも歩けるように」「地域行事に参加する」等の内容(目標)も盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は生活日誌にて、気づきは連絡申し送りノートを活用し、前日、当日のスタッフが内容を共有し、継続統一ケアに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ、利用者一人ひとりの日常生活での価値観は異なるわけですので、ご自分の意見、改善案を状況により聞き合わせ対応しています。特に利用者様が入院されて3日以上の場合は様子見に伺い、医療関係者に進言することも。。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を知ること、不足な件は少しずつではあるが地域との交流を続けて開発に向けつなげている所です。やがて実践につながる可能性を信じています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本定期受診はご家族にお願いしています。しかしながら、医師との情報の共有を図るためにスタッフが同行し、医師の指示を会議で全員に伝える方法をとっています。さらには薬剤については施設かかりつけの薬剤師を極力活用しています。	職員のアイデアで、食事摂取が困難な方には個別に摂取量等を記録し、医師に報告している。受診時は主に職員が同行し、日々の体調などを報告し、減薬に繋げている。体調変化時は家族に同席頂き、医師からの説明を聞いて頂いている。職員の観察力もあり、早期対応に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師は現在いないので、利用者様のかかりつけ医院看護師との良好な関係保持に気を使いながら異常時の相談をしやすくできるように心がけています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(設問28に記載)医療機関の相談窓口、地域連携室のスタッフ、担当看護師、医療ソーシャルワーカーとの情報交換特に日常生活介護上の特徴的なケアポイントについて内容をご家族に相談し共有しています。医療的ケアが困難な場合は一旦、ホームに戻ってもらいケアを行います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今回は、本事例に該当するようなことはありませんでしたが、以前はご本人の見取りを医師の指示を受け、ご家族と共に夜間施設で行ったことがあります。厳密には、「生命の危機状態」になる寸前までのケアを行うことはありました。	「できるだけ長く、ここで暮らしたい」と希望する方が多いが、往診体制が無く、看護師が勤務しておらず、ホームでの看取り支援はできない事を入居時に説明している。医療ニーズが高い方は適宜医師に相談し、入院や入所等の時期等の相談を続けているが、入院ぎりぎりまで家族と協力し、誠心誠意のケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に、緊急時マニュアル、職員連絡体制に基に対応しています。利用者のご家族からも感謝の言葉を頂いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	地域防災と連携し動きます。	防災チェックを毎日行い、雪対策で貯め水等もしている。毎年11月9日(防災の日)に消防団や地域の方と夜間想定及び夜間(19時)の訓練をしており、訓練結果を踏まえて様々な意見を頂いている。お米は年中あり、水や缶詰等の備蓄(約1日分)、停電時の補助電源も準備している。西海市と連携し、ハザードマップを基に自然災害を想定した防災計画等を作成している。	自然災害として「風対策」が重要になっており、今後も窓ガラス対策(フィルムや両戸の設置等)を検討していく予定である。災害に応じて公民館に避難予定になっており、今後ご利用者と一緒に公民館までの散歩を企画し、避難所要時間の参考にすると共に、備蓄の数や品目を増やしていきたいと考えている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にスタッフは基本理念にあわせスタッフ自身が作成した職員の心得をもとに業務に従事していると考えています。	ご利用者の尊厳を大切に、ご本人の立場に立ったケアが行われている。日々の業務の中でケアの仕方や言葉遣い等を振り返り、翌日の業務に活かすように努めている。羞恥心への配慮も続けており、同性介助も行われ、個人情報の管理も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由にご利用様が訴えなど発言できるように心がけています。精神科医院の看護師さん、主治医から利用者様の笑顔がよい、顔色が良くなった、お話ができるようになったなど明るい受診状況が見られています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の地域行事などへの参加などを利用者様に聞き合わせ、「今日は、都合が悪い、体調がよくない。」など言われ思うような参加ができないときは悲しいですね。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフの提案で、お化粧品用品を購入しましたので、さらなる利用者様の笑顔が目に見えます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様同士、長い生活を共にするとたまには仲たがいがされます。そういった時は食事時のテーブルの配置を変えたり、メンバーを入れ替わたりしています。もちろん、その要因になった人には気を悪くしないように、自然な形で行っています。	管理栄養士が作成した献立を基に美味しい食事が作られており、体重の変動もなく、足の浮腫も見られず、健康に過ごされている方が多い。チラシを見ながら、ご利用者と買い物に行かれたり、“ごぼうそぎ”やツワの皮むき、餃子包み等をして下さり、畑で収穫したお芋の料理も好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	重要なケアとして認識し個々の摂取量について常に気がかけています。水、お茶、果物、牛乳、飲みやすいようにお菓子、飴玉など添えてご本人の要求など参考に提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	常に、におい、入れ歯の状態、口腔内の点検を暮らしの中で気がかけて、清潔保持に努めています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	意思表示不可能な利用者様のちょっとしたしぐさ様子を見逃さないようにしてトイレの支援を行っています。失敗された方には嘆くことがないようにその思いを共有し言葉をかけています。	排泄間隔や、ご利用者個々のしぐさ(立ち上がる・呼ばれる等)を察知し、個別のトイレ誘導をしている。下着を着用する方も多く、排泄が自立している方もおられ、パッドの使用等の検討も続けている。自宅を訪問し、トイレの場所等を確認し、ホームでのポータブルの置き場所等に活かしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録簿で実態を把握。服薬、水分補給で対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご自由に利用できるように土、日を除き毎日行っています。このことで失禁などでの清潔保持、臭い対応がスムーズに行われています。	希望に応じて入浴されている。お風呂好きな方が多く、菖蒲湯や柚子湯、バラ湯などを楽しまれ、会話も楽しまれている。自立支援を大切に、できる範囲はご自分で洗って頂き、体調に応じて2人介助で湯船に浸かられている。陰部清拭等は毎日行い、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、換気、保湿、ご自分の馴染みのものをふんだんに持ち込まれて安心して過ごせ、休息できる配慮をご家族と相談し実践しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬剤師(運営委員)の提案で一包化したりして飲みやすい工夫をしたり、医師、薬剤師から薬の変更時、注意事項の指示をもとに行い。特に薬が変わったら、受診日にかかわらず状態を担当医師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる人は継続できるように、できなくなった人は何ができるかスタッフで考えて共同生活での役割分担をその人に応じ行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は、パチンコ、ハウステンボスにいきましたが、今年は4月の花見、地域の運動会、薬師様お祭りでの相撲大会に行きました。さらにはご家族との交流を推奨し外出時食事を一緒にされたりしています。特にご家族との交流がかなわない方はスタッフ運転でドライブに出かけられています。	近くのバス停の椅子に座り、日向ぼっこをされたり、地域のお祭りも楽しまれている。季節の花見や地元の大島大橋公園などのドライブを楽しまれたり、職員と自宅に行き、敷地の観音様にお参りされる方もおられる。お店でお菓子等を買われたり、馴染みの商店の特売日には、ご利用者も一緒に砂糖や味噌の買物に行かれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフに要望があり、好きな食べ物を代わりに購入、できる人はご自分でな時もお店に行き好きなものをご購入されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での大切な人との会話は大いにされています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外庭のベンチ、ベランダ、廊下には長椅子、茶の間には長椅子等を配置し好きな時間休息が取れやすい環境を心掛けています。時間に応じ陽が当たるところ、国道が見えるところ山が見えるところ稲穂が見えるところ、猫と戯れる場所、めいめいにくつろげるところで過ごされています。	玄関のソファがお気に入りの方が多く、来訪者を笑顔で出迎えて下さっている。リビングでは入居者同士の関係性もあり、テーブルの配置を工夫しており、猫好きな方はベランダの猫が見える席に座られている。自宅に帰られた時の写真や日々のリハビリ等の写真を廊下に貼り、ホームの取り組みを来訪者にご覧頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人で思いにふけっている方もおられます。自然な形で様子を見守っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力、ご本人の希望を組んでお部屋の環境づくりを行っています。	馴染みのタンスやテレビ、写真立て等と共に、大切な仏壇を持ち込まれている方もおられ、朝からお仏飯を供え、手を合わせています。ご本人が入院されている間は、職員がお仏飯をお供えしている。入居時に新しい家具を購入される家族も多く、馴染みのものを持参して頂くように伝えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在は、個別の能力を表示していないが今年から、入浴時できること出来ない事を明確にし、スタッフ全員が統一した入浴自立支援を行います		